

知事が県内各地に出掛け、三重を舞台に活躍している『若者』を紹介します。

三重の
若者の
チカラ

知事が行く！突撃取材！^{パート}2

子どもたちが胸を張って 帰りたいと思える故郷へ

^{イナカ} ^{ツーリズム}
Inaka Tourism 推進協議会 会長
(株式会社美杉リゾート 代表)
^{なかがわ} ^{ゆうき}
中川 雄貴さん

^{イナカ} ^{ツーリズム}
Inaka Tourismとは？

津市美杉町にある自然、歴史、人などの資源
をツーリズム(観光)でつなぎ、町を活性化
する取り組みです。林業体験やジビエ料理
の提供などのプログラムがあります。



知事：よろしくお願いします。中川さんが伝えたい美杉町の魅力を教えてください。

中川：美杉町には、いろいろな資源があります。今は衰退が進んでいますが、室町時代には伊勢の国司（現在でいう県庁所在地）が置かれ、北畠氏^{きたはたけ}がここに城と住居を構えて伊勢の国を治めていました。その当時に作られた庭園は、日本三大武将庭園の一つとして残っています。また、江戸時代にはお伊勢参りの人々が行き交った大阪と伊勢神宮を結ぶ伊勢本街道の宿場町として栄えました。昭和の時代には林業が盛んになり、平成の時代にはそれが小説化され、2014年には「WOOD JOB！～神去なあなあ日常～」として映画になりました。さらに美杉の豊かな自然は、東海圏初の「森林セラピー基地」に認定されました。

私たちは、このような地域の資源を生かし、林業体験やジビエ料理など、さまざまな体験型ツーリズムの提供を行っています。

いろいろお話ししましたが、私はやっぱり提供する人々が一番の資源だと思っています。今日ご紹介した青木さんや、萱間さん、木村君もそうですが、美杉には、とても面白い人がたくさんいます。知事も海外旅行に行かれた時に、最も思い出に残るのは現地の人とのふれあいではないでしょうか。Inaka Tourismは「中山間地域のありのままの暮らしをツーリズムとつなぐ」というコンセプトを掲げていますが、もう一つ裏のコンセプトは「人に出会う旅」としています。

知事：なるほど、いいですね。では次の質問ですが、美杉町に多くの人に来てもらうために、国内だけでなく海外の観光客もターゲットにされていますね。そのきっかけを教えてください。



中川さんは地元の旅館・ホテル「美杉リゾート」の4代目です。観光産業に携わる者として、町のために何かできないかと考え、2016年にInaka Tourism 推進協議会を地域の人とともに立ち上げました。

中川：もともと美杉リゾートが、25年前からインバウンドを誘致してきた実績があります。観光庁の統計などでも、「日本の生活文化を体験したい」「農村漁村で過ごしたい」と希望する人が多く、それらが旅の選択肢になってきており、特に欧米の方々は知的好奇心が強く、長期滞在を望まれる方が多いため、ターゲットとして考えています。

知事：では、地域活性化を進めていく中で、大切にしていることは何ですか。

中川：一つ目は先ほどの答えと重複しますが、「人」だと思っています。一人の突出したリーダーが活躍するよりも、スタープレイヤーが何人もいる地域の方が強いと思います。一人では一つしか波を起こせませんが、複数人いると断続的に波を起こすことができます。そのためにも、私たちは、人を輩出できるプラットフォームになれたらと思っています。

あとは、地域の人との協働です。地域の人が協力してくれなければ何も前に進みません。

最後に、これが一番重要だと思いますが、プロジェクト自体が本当に面白いと思ってもらえるかどうかです。私たちだけで「地域を盛り上げたいから、こんな活動をしています。みんなで一緒にやりましょう」と呼びかけても、誰の心にも響かないと思います。その活動やプロジェクト自体が、本当に意義があり、本当に面白いと思ってもらえるか、そこを追求していくことを大事にしています。この三つだと思います。

知事：一つ目の「人」については、野球チームでも4番バッターみたいな人がたくさんいるんじゃないかと、いろいろな多様な役割を担える人たちがチームにいて、それぞれがスタープレイヤーであることが大事ということですね。

では最後の質問です。Inaka Tourismを推進することで、美杉をどんな町にしていきたいですか。

中川：やはり、子どもたちが胸を張って帰ってきたいと思える地域にしたいです。地域が衰退しているとお話



美杉町丹生俣の林業現場では、推進協議会メンバーの菅間さん（写真左から2番目）と木村さん（写真左から3番目）に、林業について説明していただきました。



林業体験では、実際に使用する道具の説明や、^{かんぼう}間伐の大切さ、100年先の森をデザインすることをお話されるそうです。



推進協議会メンバーの青木さんが経営する民宿ほたるの宿では、青木さんが育てたアマゴを焼いてくれました。この後、おいしくいただきました。

しましたが、僕が小中学校のときには美杉全体で70人ほどの同級生がいました。今、8歳の甥がいますが、同級生は5人しかいないんです。それほどまでに人口減少が進み、特に若い人がいなくなってきました。若い人が都会に出て行って帰ってこないのは、職がないということもありますが、地域の魅力に気づいていないこともあると思います。今住んでいる若い人や子どもたちに、自分たちが住んでいる地域はいいところなんだよ、すてきなところなんだよと、地域の魅力をきちんと伝える機会をつくっていきたいと思います。

また、都会から来るお客様も多くいらっしゃいますが、都会に住んでいる人の中には、「自分には故郷がない」と思っている人がいらっしゃると思いますので、そういう人たちに美杉の自然や文化・歴史、人々にふれあっていただき、「第二の故郷は美杉」と思ってもらえるような取り組みにつながっていければと考えています。

知事：中川さん自身も、小さいお子さんがいる実感値として、子どもたちのために長期的に美杉をいい町にしたい、と考えておられるのでしょうか。これからも期待していますので頑張ってください。ありがとうございました。

中川：ありがとうございました。



民宿の横を流れる八手俣川を少しせき止め、アマゴのつかみ取りをすることもあるそうです。子どもたちが喜んでくれると話してくれました。



美杉町全体を一つの宿泊施設として捉え、客室を農林漁業体験民宿や民泊が担い、協議会事務局である美杉リゾートがフロントデスクとなって、観光客の送迎や緊急時の言語対応などを担っていくそうです。



インタビューではInaka Tourismの活動を通じて「子どもたちが胸を張って、ここに帰ってきたいと思える故郷にしたい」と話してくれました。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570 三重県津市広明町13 ☎ 059-224-2788 FAX 059-224-2032 E-mail koho@pref.mie.jp